

くすり一口メモ

高脂血症治療薬の主な副作用と特徴

高脂血症の薬物療法は多様化しております。また、当該治療薬は長期に投薬されることが多いことから、副作用についても十分な注意が必要となっておりま。そこで、高脂血症治療薬の副作用と特徴を分類別にまとめました。お役に立てれば、幸いに存じます。

分類	特徴と主な副作用	消化器	血管系、皮膚障害等
HMG-CoA 還元酵素阻害剤 (メバロチン、リピ トール、リポバス等)	横紋筋融解症 (腎機能障害のある患者は注意)	胃腸障害	頭痛 皮膚湿疹
	倦怠感		
	夜間にコレステロールが合成される ので1日1回夕食後または就寝前に 服用する		
陰イオン交換樹脂 (コレバイン等)	ビタミンA・D・E・Kの吸収不全	便秘 腹部膨満感 食欲不振	
	他剤を吸着する(併用不可)		
	水に溶かして服用する		
プロブコール (ロレルコ等)	肝酵素上昇	胃腸障害	QT延長 (定期的な心電図 検査が必要)
	CPK上昇		
	消化管からの吸収が悪い		
	抗不整脈薬との併用に注意		
フィブラート系 (ベザトールSR等)	腹部、下肢筋肉の痙攣、脱力感	腹痛 下痢 悪心	
	CPK上昇		
	糖尿病薬、抗凝固薬の作用強化		
	胆石がしやすい		
ニコチン酸系 ベリシット等	糖尿病の耐糖能悪化	胃腸障害	紅潮、掻痒感、発疹
EPL		下痢、腹部不快感	
パントシン	便秘、血液疾患治療薬	下痢、食欲不振	
エパデール	空腹時の服用で吸収が悪くなる		出血、発疹
エラスチーム	食前服用が効果的である	下痢、胃部不快感	
MDS	急速なトリグリセライド低下	食欲不振	出血、のぼせ、熱感

<参考文献>

- ・水島 豊，森田 寛：今日の治療薬 2003
- ・医療用医薬品添付文書
- ・磯部 浩昭：薬のメモ 1997
(鹿児島市医師会病院薬剤部 柿本 智広)